

1新市の将来見通し

(1)両市の特性

静岡、清水両市は、有度山を挟んで東西に隣接し、共に温暖な気候に恵まれるなど共通する部分もありますが、両市それぞれの都市としての成り立ちから、その性格について異なる部分もあります。まずは、両市それぞれの全体的特性と性格を概観してみます。

静岡市の全体的特性と性格

静岡市は、県のほぼ中央に位置する県庁所在都市である。奈良時代に国府が置かれ、戦国時代には今川義元の城下町として栄え、江戸時代に入ると徳川家康が隠居後入城し、この地で大御所として幕府政治の実権を掌握して采配をふるった。幕府倒壊後は、最後の將軍徳川慶喜が移住するなど、徳川家ゆかりの城下町として発展した歴史性豊かな都市であり、時代の権力者、文化人、学者などのゆかりの旧跡が市内の各所に数多くみられる。また、古くから東海道の要衝の地として栄え、現在も県都として、静岡県全体の政治、経済、情報、文化、教育などの様々な中枢管理機能が集積し、地方中枢・中核都市として発展を続けており、平成8年4月1日には、堺市、熊本市、岡山市など全国1市とともに、中核市の第1次指定を受けた。周辺の村との10回にわたる合併で市域は広く、南の穏やかな駿河湾から始まり北は長野県及び山梨県境の3,000m級の山々が連なる南アルプスにまで至る。その面積は1,146.13km²で、福島県いわき市(1,231.13km²)に次いで、市としては全国第2位であるが、平たん地は7%にすぎず、大部分は山間地であり、豊かな自然環境に恵まれている。産業では、商業・サービス業などの第3次産業が中心となっており商業都市としての性格を有するほか、全国一の茶の集散地でもある。他にも、いちご、わさび、しょうがなどが農業特産品として生産されている。工業では、家具、プラスチックモデル、サンダル、仏壇・仏具、雑具・雑人形など家内工業から発展した長い伝統と技術を誇る地場産業が、いずれも全国的な地位を築いている。観光資源としては、山間部に南アルプス国立公園、奥大井県立自然公園、梅ヶ島温泉などがあり、都市近郊には日本平、久能山東照宮、登呂遺跡があるなど、市域全体にわたって、多くの史跡や風光明媚な自然景観等に恵まれている。また、近年は、大道芸ワールドカップなど、新たな都市環境の中でのユニークなイベントも数多く行われている。

清水市の全体的特性と性格

清水市は、駿河湾奥の西側に位置する。南から三保半島が大きく突き出して天然の防波堤となっており、天然の良港として千石船の出入りで賑わう港町として、また、江尻、入江、辻は、東海道の宿場町として指定され、地方商業の中心地として発展した。特に、清水港は1,300年以上にわたる歴史を持つとされており、その萌芽は、斉明6年(660年)に百済救援用の軍船を造ったことに始まるといわれる。現在は国際貿易及び遠洋漁業の基地であり、特定重要港湾として日本を代表する港湾となっており、平成11年には、開港100周年(明治32年、開港場に指定)を迎えた。産業面では、港湾関連産業の他、貿易港という立地条件のため、工業も盛んで駿河湾臨海工業地帯の中心であり、湾岸には、金属、機械、造船、木材、食料品などの工場が建設されている。農業は、みかん類、茶、いちご、ばら、トマトなどの生産が盛んで、特に、いちごは、静岡市域にまたがる久能山付近で栽培が盛んで、石垣いちごの名で知られており、観光資源にもなっている。観光資源は、市南部の海岸沿いに多く、日本平や羽衣伝説で知られる名勝三保の松原などの観光地があり、市街地には、山岡鉄舟や清水次郎長などにゆかりの寺院群、さらには、日本武尊の伝説につながる草薙神社などがある。また、清水市はサッカーのまちとしても全国に知られており、Jリーグの中で唯一の市民球団として設置された清水エスパルスのホームタウンともなっている。そこで、サッカーを通じた個性的な都市づくりを目指し、サッカーフレンドシティの具現化に務めている。特定重要港湾を擁する国際海洋文化都市であり、清水港と共に発展してきたことが清水市の大きな特徴であり、港を通じた世界的な視野を持つ物流経済の中心地としての性格を備える都市である。

(2)時代の認識

21世紀を間近に控え、新しい社会の枠組みに向けた変革が、様々な分野、形で確実に始まりつつあります。こうした時代の方向を大きく要約すると次のとおりです。

成長志向型社会から成熟志向型社会への転換
高い成長を遂げた経済水準を持続的に維持しながら、社会全体の質や個人の生活の質を高め、多様な価値観や生き方を認め合う社会へ

画一性志向型社会から創造性志向型社会への転換
新しい目標を自ら見出し、多様な個性と能力の評価と自由な競争によって、絶えず新しいものを生み出し、活力を創り出していく社会へ

産業優先型社会から生活者中心型社会への転換
生活の「豊かさ」を重視し、多様なニーズやライフスタイルを持った生活者の視点に立った、より開かれた社会へ



BRAND DESIGN

(3)社会経済環境の変化

時代の価値観や社会構造の枠組みそのものが変質していく中で、社会経済環境にも変化の波が押し寄せています。主な潮流を概観すると次のとおりです。

高齢化、少子化の進行
保健サービスや福祉・介護サービスの一層の充実や、高齢者の精神的な充足感や経済的基盤の安定を図る諸施策の展開とともに、安心して子供を産み育てることができる社会生活環境の整備が求められている。

ライフスタイルの多様化と生活の質への希求
多様な選択肢をもった社会の在り方や、快適でうるおいのある生活環境の整備、生涯学習や余暇環境などの充実が求められている。

環境問題への関心の高まり
自然環境を積極的に保全・管理していくと共に、環境と共生するライフスタイルや産業構造を構築していくことが必要となっている。

ボーダレス・地球時代の到来
国家という枠組みを乗り越えた独自の存在感をもった地域や都市の在り方が求められている。

地域間交流の拡大
国内外に広がる交流ネットワークを活かし、ヒト、モノ、情報、文化等の多様な交流活動を通じて、新たな産業の展開をはじめとした活力ある地域を創造していくことが求められている。

地方分権の流れと参加のまちづくり
地方自治体には、地方分権の受け皿としての財政基盤強化はもとより、高い政策形成・事務執行能力が求められている。今後の行政運営には、市民、ボランティア団体、NPO(民間非営利組織)等の様々な主体の参加と連携が重要になっている。